



【2018-12-05】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
富士山が見られる日々の
風景は豊かだが？

長野修二

富士山が見られる日々の風景は豊かだが？

わが家にマギーがやってきて1年を過ぎ、散歩でもお互い息が合っ
て楽しくできるようになりました。

マギーのおかげではじめて見た富士山は、私がこの地に住んで20
数年が経っていましたから、なんと余裕がない生活を送っていたの
だろうと感じています。

この地から富士山までは、直線距離で約130kmくらいでしょう
か。

マギーと散歩するコースにある高台（標高約32m）から見るので
すが、朝の富士山と夕日に沈む富士山ではその表情も大きく違って
います。

夕日に沈む富士山のシルエットはなんともいいようがないすばらし
い姿です。

きれいの一言でしょうか。

そんな日々の豊かなくらしがあるのは、今という自然の成り立ちの
おかげでしょう。

それでも有史以来大きな噴火を繰り返してきた富士山ですから、こ
の地にも多量の降灰があったはずです。

また、富士山の降灰のおかげで豊かな大地に恵まれているのも関東
平野の特徴でしょうか。

何度も書きましたが、この豊かな大地には、鳥たちをはじめ多くの
息ものたちが生息し、もちろん人間も豊かなくらしを満喫していま
す。

しかし、ひとたび富士山が噴火をすれば、この豊かな大地も一瞬に
して不毛の大地に変化するでしょう。

我が国の繁栄や豊かなくらしは、身近な自然と共存しながら成り立
っているものです。

なにも起こらない時期には、人は豊かさだけを享受していますが、
自然とは、もともと人間が考えるような「[齊一説](#)」ではなく予期せ
ぬ出来事で成り立っているようですから、ある日富士山が噴火する
こともあるのではないのでしょうか。

そのようになったとして驚かないことです。

理由は、それが惑星がもつ自然だからです。

今という身近な自然の豊かさを感じることができるのも、今に生きる私たちだけなのでしょう。

それを楽しみ存分に味わっていくことが生き物たちに与えられた自然なのかもわかりません。

夕日に沈む富士山の姿も自然が創ったものならば、噴火する姿もまた自然そのものなのでしょう。

その時間軸の中にいるかいないかだけが豊かさの本質でしょう。

豊かさと危険は、惑星の時間では紙一重というところではないでしょうか。

そのように感じれば、今を感謝しながら日々生活していくことも可能です。

たとえば、富士山のやや西側の延長線上約980kmにわがふるさとがあるとわかりました。

その道筋をたどってみると意外なところを通っていることもわかります。

技術の進歩は、日々の暮らしに楽しさや面白さをもたらしてくれます。

身近な自然は、豊かなくらしを築いてくれますが、それは同時に突然の危険をもたらす存在であることも忘れてはなりません。

この冬は暖冬傾向のようですが、年が明けると突然大雪に見舞われたりと案外自然の変化は急激なものです。

住宅や庭木の損壊などが発生することをあらかじめ覚悟しておく必要があります。

人間の生活は快適になったとはいえ自然の力は私たちの想像を超える力でやってきます。

身近な自然の風景の中にも生き物としての覚悟は常にもっておかなければなりません。

この地では地震も頻繁に発生しており、これまでとは違う覚悟もまた必要な時代ではないでしょうか。

だからこそ、日々の生活の中で感じる身近な自然の豊かさを大切に

したものです。